地域発見エクスカーションに参加して

地域創造学類１年

私がこのツアーに参加したのは、奥能登の地域活性化に取り組む人々に会って、「現在の奥能登の状況はどういうものなのか」ということを直接知りたいと同時に、奥能登の人々の温かさに触れてみたいと思ったからです。実際参加してみると、普段味わえないような充実した時間を送ることが出来ました。

そんなスタディーツアーで印象に残った事は、奥能登の地域活性化における人々の「熱意」です。まず、金沢大学の能登での里山研究に使われているという能登学舎で、農業や生物など多岐にわたる分野で活躍されているマイスターの方々に話を伺いました。どの方もとても意欲的に説明された姿が記憶に残っています。中には研究者としてではなく、企業から事業を進めるために派遣されて能登に学びに来ている方もいて、能登は魅力ある土地だということを実感しました。

また、同じくツアーに参加した学生の意見も聞く機会がありましたが、意見をしっかりと持っていた方々ばかりで、意識の高さが感じられました。自分自身も他の学生の意見を吸収して、成長していきたいです。そういう意味でも今回の経験は貴重だったと思います。

地域活性化に必要なのは、そこにいる人々の「地域を、能登を、元気にしたい」という気持ちです。地域活性化には、地域住民の方々の「この地域をどのようにしたいか」という意思が尊重されるべきだからです。地域活性化の主役は住民の方々なのです。要するに、地域活性化を成功させるには、やはり住民の方々の協力が不可欠ということなのです。私は、金蔵で地域活性化を目指す住人の方々の話を伺って強く、そう感じました。金蔵という地域は住民の方々の「熱意」があるからこそ良い方に向かっているのだと思います。

しかし、その地域に住んでいない人間でもそのきっかけを作ることや、手助けをすることは出来ます。金蔵の方々が地域活性化を目指すことになったのも、実はその地域に訪れた方がきっかけとなったそうです。このように、地域活性化を目指すには地域住民の方々だけではなく、その地域に住んでない人々の意見も取り入れる事もまた、必要だという事が分かりました。

他にも椎茸の菌うち体験、千枚田や輪島朝市の見学、そして「四季の丘」や「能登ワイン」で地域活性化に取り組む方々の話も伺うことで、奥能登に沢山触れることが出来ました。それだけでなく、沢山の美味しい能登の料理とも出会う事が出来ました。能登は行くたびに違う発見が生まれる面白い地域です。そんな能登にまた行きたいと思いますし、今後も携わっていきたいです。今回のスタディーツアーは非常に良い経験となりました。

能登エクスカーションに参加して

地域プランニングコース 2 年

私は金沢に移住して以来、既に何度か奥能登を訪問しており、訪問のたびに奥能登の豊かな自然と生活文化、そして奥能登をフィールドにそれぞれの方法で挑戦する人たちの姿に感心させられてきた。そのため、今回の企画への期待は高く、直前まで続いていたテスト期間で凝り固まった頭と身体をリフレッシュする良い機会だとも思い、参加を即断した。

奥能登は日本で最も高齢化の進む地域の一つであると知られている。それは変えようもない事実で、減り続ける人口を増加に転じさせることは出来ない。日本全体の発展も見込めず国全体が緩やかに縮小していく中で、経済効率だけを考えれば真っ先に見捨てられかねない地域である。そのことは、恐らく奥能登で生きている人たちが一番よく分かっていることだろう。しかし、その奥能登が秘める多様な魅力、すなわち、地域の存亡に関わる危機を生き延びるための武器に気がつき、それを活かそうとしているのもまた、奥能登の人たちだった。

確かに奥能登は様々な要因から厳しい局面に立たされている。しかし、そこに暮らす人々は皆一様に前を向いていた。今有るものを真っすぐ見つめ、たとえば高齢化に代表されるような、世間ではネガティブに捉えられがちな要素すら資源として活かそうと奮闘される方々が確かに生きている。「能登はやさしや、人殺し」という言葉にも、自然と納得してしまう程のその姿に、私はいつもの如く圧倒されると同時に、この事実をより多くの人たちに伝えたいという衝動にも駆られた。日本がこれから直面する様々な問題の最前線とも言えるこの半島で地域の再生に向けて懸命に取り組む人々の姿は、見る人に必ず勇気と希望を与えると思うのだ。私は放送サークルに籍を置いているが、在籍中に是非奥能登に生きる人々を取り上げた番組を制作したいと思う。

最初はテスト明けの良い気分転換のつもりで参加した今回のエクスカーションではあったが、結局のところ、来年度も引き続き地域という捉えどころの乏しい対象について学んでいく上での自分の心構えについて、大いに悩む契機となり、リフレッシュどころではなくなってしまった。頭を抱えてばかりでは幾ら何でも辛い巡検となってしまう。そうなってしまうことを免れたのは、やはり奥能登の理屈抜きに美味しい食べ物とどこを切り取っても美しい風景であった。それは余所者にとって最も分かりやすい、奥能登が持つ資源に他ならない。これからも宗玄を片手に、能登半島の現実と可能性について思いを馳せようと思う。

地域発見エクスカーションに参加して

立命館大学経済学部２年

私はNPO法人おらっちゃの里海里山の赤石さんから、今回のスタディーツアーの話をいただき、参加しました。はじめは何も分からなくて、知り合いもだれ一人いない環境に入ることに抵抗を感じて、ぎこちない感じでした。しかしバスに乗り込んでみると皆温かく受け入れてくれて、内心ホッとしました。私は今回、たくさんの人とお話をし、たくさんのことを学び、あっという間の2日間を過ごすことができました。

私は今回このスタディーツアーに臨むにあたって、①現場とはどんなものなのか。どんな人がいてどんなことをしているのか。今後は何が求められているのか、②地域活性化とは何か。それはどうして必要なのか。それについてどういった取り組みがされているのか、③このスタディーツアーはどのように開催されているのか、という 3 点について学びたいと思っていました。

結果は大変満足のできるものでした。①については、能登の実際の現場を見て、お話を聞いて、体験を通して体も動かして、それだけで現場の人の想いを教えてもらえたし、現実も知ることができました。皆さん、能登のために何かやってやろうという熱い思いを持っていて、能登を盛り上げようと挑戦していました。また、能登の活性化に取り組む人が、相互に理解し、協力し合い一致団結出来れば、さらに大きなことが出来るのではないかと感じました。②については、答えはもともと無くて、これっていうものは見えてこなかったけれど、対談や飲み会、ふとした会話から、地域の活性化に対する熱い信条はしっかり受け取れました。日本人として守っていかなくてはならないモノが地域には絶対存在していて、これがなくなってしまったり、地域で奮闘している人がいなくなってしまうと、いよいよ日本という国はどうなってしまうのだろうか、と考えさせられました。そこについてはこれから、もっと勉強して深めていきたいと思います。③については、教授とお話をしたり、学生と話して、どのようにして開催出来ているのかが知れました。開催について知りたかったのは、私自身、今回のスタディーツアーのような企画を立命館でも実施したいと考えているからです。ただ、もっと細かい部分についても知りたかったです。

今回このスタディーツアーに参加し、能登の自然や人と触れ、自分の足で動いて、自分の頭で考えて、本当に楽しかったし、刺激になりました。地域というものについてもこれからさらに勉強していきたいです。また、今後はもっと多くの学生がこのスタディーツアーのように、地域に入り学べる機会を気軽に利用し、自分なりに地域について考えられるようになることが大事なのではないか、と思いました。

最後に今回のスタディーツアーでお世話になった方々全員に感謝したいです。ありがとうございました。